重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	家庭教育の必要性が理解され、若者の道徳心が回復している	
施策名	青少年のモラルを高める	No.13

年度	平成28年度
責任部長	こども部長
主担当課長	青少年育成課長
関係課	子育て支援課、生涯学習課

1．まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
若者のマナーが良くなったと感じている人の割合（%）	↗	13.5	15.5	18.5	19.3	24.2	24.8	18.8
		24.8	22.2	26.3	26.0	28.8		27.8
家庭内で善悪の判断について話し合っている人の割合（%）	↗	87.8	91.1	89.0	90.4	92.4	88.2	90.2
		88.2	91.1	91.9	90.1	90.6		92.6
若者の非行件数（件）	↘	—	—	—	—	—	—	—
		212	184	201	157	182		295

2．外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

24時間型社会の進行、情報化社会の急激な進展など青少年をとりまく環境は厳しくなっている。また家庭を始めとする大人の規範意識の低下で子どものしつけが十分できない等の問題がある。国、自治体、学校、地域では、様々な活動を通して健全育成活動や家庭教育についての啓発を行っている。書店、コンビニエンスストア、携帯電話会社等は青少年対策を講じている。警察でも青少年の深夜徘徊防止に力を入れている。

3．めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	A 改善傾向	指標「若者のマナーが良くなったと感じている人の割合」は最終目標値を達成している。「若者の非行件数」についても、最終目標値を達成し、年によって上下はあるものの低い数値で推移している。指標「家庭内で善悪の判断について話し合っている人の割合」も9割を保持しており高めの水準である。また青少年保護育成条例の改正を始め、相談できる場所、機会の増加など青少年をめぐる環境の整備は進んでおり、警察の青少年対策の強化も継続されている。総合的にみて、めざすべき姿に向け改善傾向にある。

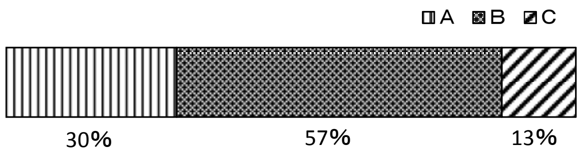
評価がB・Cの場合

4．事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	
次年度の改善計画	

＊＊

市民からみた計画の進捗状況

・A判定（改善傾向）　30 %
・B判定（停滞）　57 %
・C判定（悪化傾向）　13 %